

令和6年度 事業報告書

1. 堺あすなろ会
2. ピュアあすなろ
3. 堺あすなろ園
4. あすなろ万崎の郷
(万崎の郷・もみの木)
5. アトリエhana
(アトリエhana・ゆめ工房・Link みいけ)
6. グループホーム事業
7. フィットウェル
8. わかば
9. 陽だまり
10. 障害児通所支援事業
(Link みいけ・Link にわしろ・Link ふかい)



社会福祉法人 堺あすなろ会

令和6年度 堺あすなろ会 事業報告

【企画研修部】

1. 研修

① 法人研修を計画、実施

令和6年度も、昨年度に引き続き集合研修で行った。

日 時：令和6年11月4日（祝・月）9時30分～11時45分

場 所：堺あすなろ園

講 師：稲垣亮祐先生（さわらび診療所 精神科医）

テーマ：「一人で抱え込まないチーム支援」

※ 稲垣先生の講演後、グループワークも行った。出席 69名

② 新人研修の実施

令和6年度も、入職者が新卒ではなく中途採用だったため、年度当初の新人研修は行わなかった。

③ 障害児者施設部会と協力しての研修の実施

国庫補助を受けて、階層別研修・採用力アップ研修などを行った。テキスト・録画動画などが成果物として残ったので、今後の研修に活用していく。

④ キャリアパス制度導入に向けての研修

令和6年度は、まずキャリアパス制度を知るための管理職対象の研修を行った。

2. 広報

「あすなろ新聞」 4月 6月 8月 10月 12月 1月 3月号を編集・発行

※ 8月・10月は合併号として発行した。

3. 国際交流

令和6年度は、ドイツ、ビーレフェルト市のベーテル総合福祉施設の利用者のアート作品を「ベーテル作品展示会」として展示した。（令和7年1月9日（木）より19日（日）まで、西区鳳の Arts-B ギャラリーにて開催）24作品を展示し、16作品が売れた。（主に一般市民の方々が購入）

4. 採用活動

人材紹介会社や、広告会社、派遣職員から正規職員への移行などによって、中途採用を行った。

ピュアあすなろでは、特定技能資格を持つ海外人材を雇用する取り組みを進めた。令和6年8月、インドネシアから2名の男性職員が入職。12月、ネパールから3名の女性職員が入職。）

5. メンタルヘルス

令和6年12月、令和7年3月の2回に分けて、全職員を対象に、ストレスチェックを行った。

6. オール大阪の社会福祉法人による社会貢献事業

関係機関との連携を十分に行いながら、地域の援護を必要とする方への相談活動及び経済的援助を行う事業を行っており、令和6年度は1名の方の援助を行った。

【車両管理部】

1. 車両管理

○ 車両維持費

燃料費・任意保険料・車検代・点検修理代・リース料

令和 6 年度	11,593,048 円
令和 5 年度	11,689,656 円
令和 4 年度	10,660,468 円

○ 車両使用状況

年間の走行距離や使用年数等で車両の状態を把握する。

○ 車両購入について

新車購入報告

- ・工藤悦子基金 助成決定（公益財団法人 泉北のまちと暮らしを考える財団）

令和 7 年 5 月 8 日 納車

日産セレナ 普通車 8 人乗り

助成金 700,000 円

自己資金 2,200,000 円

事業費総額 2,900,000 円

2. 送迎業務

○ 送迎担当者会議（2 ヶ月に 1 回）

- ① 送迎に関する課題（停留所やコース、到着時間等）の検討、解決
- ② 各事業所による情報交換
- ③ 事故・トラブル・苦情等の報告
- ④ ヒヤリハット報告
- ⑤ 各事業所への配車の調整
- ⑥ 車両の管理状況の報告（車検時期や簡単な点検）

○ 送迎ドライバーとの連携と情報交換

- ① ドライバーの健康状態の把握
- ② 業務内容の確認及び業務連絡

○ 安全運転講習

各事業所にて、安全運転への啓発

- ① 交通事故防止のための講話
- ② 交通安全 DVD 鑑賞 ・交通事故「被害者遺族の無念・加害者の後悔」
- ③ 意外な交通違反について

・ピュアあすなろ ・アトリエ hana ・ゆめ工房
・堺あすなろ園 ・万崎の郷 ・もみの木
・地域支援部 ・Link みいけ ・Link にわしろ ・Link ふかい

○ アルコールチェック実施

運転業務前と業務後に、運転者の状態をアルコール検知器や目視等で確認し、酒気帯びの有無を確認する。

結果をアルコールチェック表へ記入し、1 年間保存する。

○ 災害発生時及び非常事態時の緊急帰宅マニュアルの作成

各通所事業所対象

○ 送迎時、利用者の置き去りや飛び出し等の事故防止と安全確認の徹底

支援員またはドライバーによるドアの開閉

添乗員の配置（可能な限り）

置き去り防止装置の取り付け（放課後等デイサービス）

○ 送迎時の新型コロナウイルス及びインフルエンザ感染予防対策

- ① 乗車時及び乗車中の健康観察
- ② 乗車時の手へのアルコール消毒
- ③ 送迎車の窓を開けたり、外気循環モードによる空気の入替え
- ④ 送迎車内での私語を出来るだけ控える
- ⑤ 送迎終了後、アルコールによる車内消毒

○ 法人車両の事故・トラブル・苦情等発生状況

発生件数 17 件 (前年度件数 23 件)

内 容	件数	状 況
人身事故	0 (0)	
車対車	3 (0)	<ul style="list-style-type: none"> ・発車時、右側を追い越してきた車両と接触する 1 ・停車時、右側を追い越してきた車両が接触する 1 ・すれ違いざまミラー同士が接触する 1
自損・物損	8 (20)	<ul style="list-style-type: none"> ・バックした際、後方の壁や柱等に接触する 3 ・事業所内に進入する際、フェンス等に車体を接触させる 2 ・ハンドルを大きく右に切って発車した際、左後方のポールに車体後部を接触させる 1 ・事業所内で発車した際、左前方の植木鉢に気付かず接触する 1 ・対向車が来たのでバックして道を譲った際、側溝に脱輪する 1
トラブル	4 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時バックで進入する際、右側から走行してきたバイクに文句を言われ口論になる 1 ・マンション敷地内ですれ違う際バックして譲ってくれたが、その後ドライバーが降りて来て文句を言ってきた 1 ・走行中に自転車を追い抜いた。その後信号で止まると自転車の男性がいきなり激怒してきた 1 ・交差点を右折する際、後方車に激しくクラクションを鳴らされる。その後信号で止まると降りて来て文句を言われた 1
交通違反	1 (0)	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者妨害 1
苦情	1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・おろし忘れ防止ブザーを作動させてしまい、近隣住民から注意を受ける 1

3. 事業の総括

令和6年度も安全・安心・快適を第一に車両運行及び送迎業務に取り組んだ。

車両維持費は前年度とあまり変わらない。燃料費も依然高騰が続いたままで下がる気配がない。今後の対策としては自動車保険の保険料を下げることで経費節減が期待できる。そのためにも交通事故を起こさないよう安全運転を心掛けてほしい。

送迎業務については、交通事故以外に利用者の置き去りや送迎車からの降車時の飛び出し等の事故防止に当たるよう注意を呼び掛けた。

明るい兆しとして、法人車両の事故・トラブル・苦情発生件数が前年に比べ減っている。これは安全運転への意識が高まっていると信じたい。特に自損・物損事故が大きく減っていることが結果に出ていると感じる。

今後も事故ゼロを目指して、安全運転及びエコ運転に常に徹してもらいたい。

令和6年度 ピュアあすなろ 事業報告

利用者数 (令和7年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	定員に対する稼働率
施設入所支援	50	49	49.1	98.3%
生活介護	40	49	48.4	111%

短期入所 <今年度利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実利用者数	47	38	37	41	37	43	40	40	39	36	40	42	63
延利用者数	101	89	78	92	80	91	96	86	80	78	85	99	1,055
延利用日数	365	311	272	311	297	296	294	262	288	263	331	368	3,658

《事業の総括》

入所施設は集団生活である為、感染症拡大リスクは非常に高い。対策を講じたとしても防ぐことが難しい。その為、スタッフから感染症を持ち込まないこと、スタッフが媒介者とならないこと、重症化に気づき適切な対応を取ることが求められる。

スタッフ不足については、特定技能外国人の制度を利用し男性2名・女性3名のスタッフが入職している。そのことにより、スタッフ負担は大きく改善されたように感じる。ストレスチェックでも前年度に比べて改善していることが数値で示されている。ただ、24時間の生活施設であることや高齢化に伴い介護度が高くなっていること、行動障害がある方の支援の専門性が高くなっているなど、スタッフ体制を強化維持しなければ安定した支援を継続していくことが難しい。人員が不足すれば頑張っているスタッフに負担がかかる。利用者の支援に貢献し頑張るスタッフを大切にするためにもスタッフの充足は欠かせない。

短期入所稼働率が低下している。理由としては、グループホームや短期入所事業所が増えた事が考えられる。ただ、法人内利用者であっても主な介護者に急な事があった場合など、短期入所利用のニーズがあると思われる。急な事があった場合の利用だけでなく、事前にご本人・ご家族に慣れていただくように短期入所利用を案内していきたい。

支援の内容

<活動支援>

(1) 日中活動（生産活動）

午前（月・木・金）午後（月～土）の時間で活動している。できるだけ個別のニーズに沿った支援ができるよう、4つのグループ分けを行い、軽作業・健康維持向上・自立課題制作などに取り組んだ。

授産収支

収入	支出	収支差額	利用者1人当たりの平均工賃/月
158,490円	122,337円	36,153円	556円（※1）

（※1）軽作業に関わる方への支給総額/軽作業に関わる利用者20人

(2) スポーツ及びクラブ活動

- ・リズム体操 多目的室で時間や人数を調整し実施した。
- ・調理クラブ フルーツサンド・アイスクリーム・ゼリー
- ・レクリエーション 体操、塗り絵、缶当て、風船バレー等を行った。

<全体行事>

(1) 年間行事

7月七夕バーベキュー	8月納涼祭	11月花火大会
12月クリスマス会	1月新年会	3月ひな祭り

(2) 余暇活動

- ・ 季節余暇 10月ハロウィン 2月節分 4月花見
- ・ グループ外出・外食 外出先 ハーベストの丘・プラネタリウム・堺市博物館
外食先 マクドナルド・丸源ラーメン・びっくりドンキー・くら寿司
- ・ ティータイム・ドライブ

<生活支援>

(1) 環境整備

日常掃除の実施。スチームクリーナーを活用した床掃除。大掃除を年2回実施・定時トイレ掃除の実施・洗濯機の槽洗浄の実施。物品管理・衣替えを年2回実施・居室内タンス内の整理整頓の実施・布団の入れ替え2回・節電に関する啓発・ゴミの削減に努めた。

<その他>

- (1) 防災 防災訓練 (消防署立会) 12月20日
(火災避難訓練 自主訓練) 11月17日・2月19日
(地震・火災避難訓練 自主訓練) 7月2日
防災設備点検 5月・10月
非常食 1週間分を備蓄

(2) 自治会

月1回のミーティング実施。写真・カレンダー販売・おやつ作り・慰労会を実施。

(3) ピュアだより発行 (1ヶ月に1回) ブログ更新 (不定期)

(4) ヒヤリハット

各支援者が遭遇し問題と感じた事柄をヒヤリハット項目で記入する。その内容を会議で、検討し改善するようにし、2ヶ月後に振り返り報告を行った。

(5) 研修

- ・ 法人研修 「一人で抱え込まないチーム支援」
- ・ ケース会議を行い、利用者の状況の把握と支援の方法を検討する。
- ・ 交通安全講習会、新型コロナウイルス感染症対応、防護服の着脱の仕方、災害時の体制 AEDの使用動画、職員の研修発表、虐待防止研修
- ・ 外部研修内容を会議などで全職員へ伝達。
- ・ 資格取得の推奨
- ・ 職員による研究発表

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| (4月) 軽度知的障害について | (5月) この仕事を選んだ理由 |
| (6月) メンヘラ※1から知った HSP※2について | (8月) 誤嚥性肺炎 |
| (9月) ボディメカニクス※3 | (10月) 認知症について |
| (12月) 排泄について | (1月) 行動障害 |
| (2月) 体位変換 | (3月) 入浴・清潔保持 |

※1) 心に何らかの問題を抱えている人、精神的に不安定な人

※2) 感受性が高く環境刺激に敏感に反応する人

※3) 身体にかかる負担を抑え最小限の力で介助するための技術

給食

<目的>

各個人の嗜好や量に気をつけ、季節感あふれる楽しい給食にする事を心掛けている。また、肥満傾向にある利用者が多い為、献立には野菜を多く取り入れ、油物を減らすなど、肥満改善のための給食を心掛けている。

<給食の状況・内容>

普通食ではあるが、食事に配慮が必要な人に対しては、その状況に応じて提供できるように努めている。内容としては、咀嚼能力の低い人などに対して、主食であるご飯をお粥にし、おかずや汁物の具・麺類等を細かく刻んで食べやすくしている。(一口大・荒刻み・小刻み・ミキサー食) 食事の量に関しては看護師・現場職員と話し合ったうえで決め、盛り付けの際に各個人に応じて調節している。

また、体調不良者に対してはその症状に応じてお粥食を実施するなど対応してきた。食物アレルギーのある利用者については、細心の注意を払い、アレルギーの元になる食品の除去や、代替食を実施した。そして、適温給食の実施にも取り組み、温かいものはより温かく、冷たいものはより冷たく提供できるように直前調理に努めている。

<アンケート調査について>

給食献立の内容について、利用者に簡単なアンケート調査を行った。
アンケート結果をまとめて掲示した。

<衛生管理・食中毒の予防について>

厨房内は常に衛生的且つ安全な状態を保つ為に、清掃・整理を徹底した。

<平均給与栄養量>

エネルギー	1814kcal	ビタミンA	872 μg
たんぱく質	82.7g	ビタミンC	134 mg
脂質	53.1g	カルシウム	635 mg
塩分	8.7g	食物繊維	20.5g

医 務

月別事業

- 5月 春の健康診断実施
利用者：血液検査・身長・体重・血圧・胸部レントゲン・心電図(女性のみ)
職員：血液検査・身長・体重・血圧・胸部レントゲン・腹囲・聴力検査・心電図
- 7月 しばもとクリニックの血液検査
- 11月 秋の健康診断実施
利用者（血液検査・身長・体重・血圧）
職員（血液検査・身長・体重・血圧）
- 11月 インフルエンザワクチン接種
- 12月 肺炎球菌ワクチン接種（3名）
- 1月 風疹ワクチン接種（3名）

定期往診・通院

- ・しばもとクリニック（心療内科・神経科・精神科） 毎月1回
- ・ひとねクリニック（内科・循環器内科） 毎月1回
- ・飯田クリニック（整形外科・皮膚科） 第3金曜日通院
- ・ますもと歯科 往診 毎週火・土曜日
- ・坂田歯科 往診 毎週水・金曜日

感染症

感染性胃腸炎：利用者 5名、職員 3名
インフルエンザ：利用者 35名、職員 10名
コロナウイルス：利用者 0名、職員 0名

感染症対策

- ・季節性インフルエンザワクチンは、利用者 50名接種実施。職員は個人判断で任意接種。
- ・各フロアに設置している感染症の嘔吐物処理セットの確認・補充。

今年度の振り返りと今後の課題

- ・インフルエンザワクチン接種の時期をインフルエンザの流行時期より早めに接種し、利用者に抗体をつけて罹患時の重症化を予防しなければならない。また、職員も同様に職員が感染症に罹患しないよう健康管理を行うことが重要である。
- ・利用者の高齢化、重症化に伴い一人一人に合わせた支援や介助が求められる。障がいの特性の違いにより利用者との関わり方など学びを深めることが必要と考える。

令和6年度 堺あすなろ園 事業報告

利用者数 (令和7年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	定員に対する稼働率
就労継続支援 (B型)	12	11	10.70	89%
生活介護	38	42	36.89	97%
合計	50	53	47.59	96%

《利用者の入退所状況》

	退所者数	入所者数
就労継続支援 (B型)	0	0
生活介護	0	0
合計	0	0

<事業の総括>

今年度は、春の行楽行事、秋の日帰り旅行、お食事会、あすなろフェスタに加えて新たにかき氷を食べよう会と運動会の行事を実施する事ができた。利用者も楽しまれている方が多く継続して実施していきたい。

日中の余暇活動に関しては畑の一部を活用してジャガイモの植え付けを行った。今後も畑の有効活用をしていく。ただ、利用者の高齢化もあり活動に関しては個々の取り組みを考えていく必要がある。

作業に関しては、就労継続支援 B型の作業量が減少しており新たな作業を模索していく。

新型コロナウイルスとインフルエンザの罹患者が数名出たが大きな拡がりはなく終息している。

行事・自治会活動

<行事>

	生活介護	就労継続支援 (B型)
5月～6月 春の行楽行事	① くろくまの郷・花の文化園 ② 天王寺動物園 ③ ワールド牧場 ④ 明治なるほどファクトリー	天王寺動物園
10月～11月 秋の日帰り旅行	① 関西国際空港 ② 大阪広域環境施設組合 ③ 蓬莱 本店 ④ 生駒山上遊園地	金魚ミュージアム
12月18日	あすなろフェスタ	
2月～3月 お食事会	① 今日亭 ② すし半 ③ 木曾路 ④ すし半	ベーカリーカフェ PEPE

- ・毎月、講師をあすなろ園に招きリズム体操を実施。
- ・かき氷を食べよう会 8月16日・9月4日
- ・運動会 3月11日
- ・かき氷を食べよう会と運動会を新規で行った。行事が増え利用者の楽しみが増えて喜びの声が多かった。一方でイレギュラーが苦手な利用者もいる為、全体のイベント事前後で不調になる方もいた。行事内で怪我人など出ず実施することが出来た。準備する職員、参加した職員からも楽しかったと報告を受け、利用者だけでなく職員も含む全体で楽しむことができた。

<自治会>

- ・月一回の自治会会議の開催
- ・自治会新聞を年4回発行
- ・花壇の世話・絵札の作成

- ・活動内容が花壇の世話が殆どとなり、それ以外の活動が少なかった。自治会会議で利用者が提案してくれた活動（館内清掃）が出来なかったのもあり次年度は利用者から出た活動を積極的に取り入れたい。今後の活動として、イベント等の見直しを行い、他の係等と連携を取り自治会の活動の幅を増やしていきたい。

防 災

- 6月21日 地震火災避難訓練（自主訓練）
- 9月～11月 随時 各班で非常時避難場所（福泉小学校、福泉東小学校）に徒歩にて避難訓練
- 11月15日 火災避難訓練（立会訓練）
- 3月6日 水害避難訓練（自主訓練）
- ・今年度、避難における所要時間が全体を通して前年度より遅くなった。次年度ではよりスムーズに避難を行いたい。過去の資料を参考にして手違いのないようにし、反省を反映しスムーズに避難できるようにしたい。

研 修

実施日	テーマ及び講師	備考
令和6年 5月30日	感染症業務継続計画研修 訓練「事業所内の消毒方法について」	堺あすなる園
令和6年 6月21日	自然災害対策継続計画研修 訓練「初動対応の机上訓練」	堺あすなる園
令和6年 11月4日	「一人で抱え込まないチーム支援」 さわらび診療所 稲垣 亮祐氏	法人研修
令和6年 12月20日	「交通安全講習会」 講師 車両部長 岩井 正信氏	堺あすなる園
月に一度程度	ケース会議（各利用者近況報告・検討会議を行う。）	年12回
令和7年 1月24日	「レクを通して実践を」「他施設と情報交換しよう」 講師 水流 寛二氏	施設部会 実践交流会
令和6年 10月18日	虐待防止研修 「怒りのコントロール・アンガーマネジメント」	堺あすなる園
令和7年 1月17日	虐待防止研修 「障害者虐待防止法の理解と対応」	堺あすなる園
	虐待防止委員会・身体拘束適正委員会	年4回

<課題と反省>

- ・法人研修は基本的には全員参加だが欠席の人には録画での研修を行った。
- ・例年通り各班担当が1人一回ずつ発表する形で全員平等に発表の機会が行き渡った。
- ・施設部会で障害福祉分野における小規模事業所の協働化モデルの一環として階層別標準研修・テーマ別研修が実施された。堺あすなる園の職員も多数参加し学ぶことができた。

給 食

<考察・今後の取り組み>

例年同様、衛生面に留意しながら適温給食の実施・個人の食事形態の要望に添えるよう努めた。また、アンケート等の嗜好調査を実施し、参考としながら季節感や時好も取り入れた給食提供を心掛けた。物価高騰もあり、良質なものを手頃な価格で購入したく、新たに生鮮食品の業者と取引を開始したが、現状、大きな効果は出ていない。米の価格も安定せず、既存の業者と新しい業者の価格を比較し併用しながら対応している。可能な範囲にはなるが、工夫しながら美味しく楽しめる給食を提供できたらと考える。

保健

<健康診断> 1回目… 5月10日、2回目…11月1日

- 胸部レントゲン・心電図（利用者は女性のみ、職員は全員）・血液検査・尿検査・聴力（35歳と40歳以上の職員のみ）・検便（希望職員のみ）身長・体重・血圧・腹囲
- ・利用者の受診票裏面（病歴）は前年度秋の健康診断から受診票裏面のコピーを配布し、事前にご家族等に回答してもらう形をとっており、正確な記入ができています。春の健康診断は職員間の連携不足の為、混乱があった。秋の健康診断時は職員配置を明確にして実施。スムーズに健診できた。

<歯科検診> 1回目…6月15日、2回目…11月21日

- ・移動に時間がかかりドクターを待たせてしまう場面があった。今後はもう少し時間短縮の為の配慮が必要と考える。

<ヘルスチェック> 毎月1回、体重・血圧・脈拍・体温を測定

<ドクター相談> 毎月1回、内科医に嘱託医として往診していただいている。

<感染症対策>

- ・検温（朝昼夕3回）
- ・登園時及び帰宅時（送迎バス乗車前）の手洗い・アルコール消毒
- ・作業室やドアノブ、送迎車等の消毒

<振り返り>

- ・コロナウイルスに加えてインフルエンザの感染者もみられたが、大幅な拡大もなく過ごす事ができた。今後も励行していけたらと思う。

生産活動

<生活介護班>

生活介護班は、村上敷物（木管）、ヒラマツ（ネームプレート他）、イクロス（タオル）、銀のさら（お箸）、森井製作所（バネ）、大賀（検尿セット・生活介護班はスピッツ作業）に取り組んだ。

<就労継続B型班>

大賀（検尿セット）、森井製作所（バネ）、自主製品（ふきん）、そして新規作業として9月よりふぁんたじい（ポチ袋他）、そして新規作業として7月より中辻製菓（箱折り）に取り組んだ。また、スポット作業として輪縫いタオルにも取り組んだ。

<振り返り>

収支について、生活介護は10月より村上敷物（木管）の単価が1円から2円になったため、昨年度と比べて収入が上がっている。生活介護の収支バランスに合わせた利用者への還元を今後も継続していく。就労継続B型は、年度末賞与を出した兼ね合いで、残高が少なくなった。今後の収支をみて就労継続B型を継続していけるか決めていく必要がある。

<授産収支>

	収入	支出 (うち工賃支出)	収支差額	利用者1人当たりの 平均工賃/月
生活介護	637,948円	391,600円 (391,600円)	246,348円	776円
就労継続B型	988,940円	1,235,318円 (1,067,990円)	-246,378円	8,080円
合計	1,626,888円	1,626,918円 (1,459,590円)	-30円	

令和6年度 あすなろ万崎の郷 事業報告

(あすなろ万崎の郷・もみの木)

利用者数 (令和7年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	稼働率
万崎の郷 (生活介護)	10	12	9.19	88%
もみの木 (生活介護)	10	8	6.92	66%
合計	20	20	16.11	81%

《利用者の入退所状況》

	退所者数	入所者数
万崎の郷 (生活介護)	1	0
もみの木 (生活介護)	0	0
合計	1	0

＜事業の統括＞

今年度4月からの報酬単価改定に伴い、開所時間を10:00～16:00の設定にし対応させて頂いた。利用者の方の中には利用時間が変わることによって不安等訴える方もいらっしやしたが、ご家族や周囲の方のサポートもあり、混乱なく開所することができた。利用時間が増えた事で、各事業所で皆で室内清掃に取り組んだり、日中活動にたくさん時間が使えたり等、色々な経験をする事ができた。

前年度から今年度にかけて利用者が減り、新規利用者の募集を行ってきたが、なかなか新しい利用者の獲得は難しい状況であった。また、利用者のご家族の高齢化に伴う家庭環境の変化が多くの利用者の方に起こってきている。利用者の方自身も高齢化に伴い、機能低下が顕著に現れてきている。今後は利用者個々のニーズに合った活動の提供とサポートして頂く家族を含めた通所環境の整備が課題である。

行事

- ・春の行楽行事 万崎の郷…5月21日(火) コープラボたべるたいせつミュージアム
もみの木…5月24日(金) 堺市総合防災センター

久しぶりに施設見学と食事会場が別の所に行ったが、問題なく移動できていた。

防災体験では暗い部屋に入るのが苦手な方がいたり、車いすでは体験が難しいものもあったが、講師の方の防災についての話を真剣に聞く方が多く良い体験ができた。

- ・万崎の郷交流会 10月18日(金)

AM 万崎の郷にて、ミニ運動会(大玉転がし・射的)合同で昼食(弁当)

PM 各事業所においてレクリエーション大会

例年行っていた芋堀りは不作の為中止した。しかし、ミニ運動会や射的は、皆さん楽しそうに取り組まれていた。昼食も初めて一緒に食べてみたが、皆さん混乱なく過ごす事が出来、またお互いにゆっくりと交流することができていた。

- ・秋の行楽行事 万崎の郷…11月22日(金) ワールド牧場
もみの木…11月8日(金) 月化粧ファクトリー

天候に恵まれ、ゆっくりと時間を過ごす事が出来た。目的地が遠方であったが、問題なく行程をこなせた。介助食が必要な方が出てきたが、レストランではきめ細かい対応をしてくださり、安心して食事をする事ができた。

- ・新年会 万崎の郷…1月24日(金) はや・魚太郎泉北の郷
もみの木…1月31日(金) 包包點心 イオンモール北花田店

握りずし・すき焼きから選択してもらい、皆さん美味しそうに召し上がられていた。

ビュッフェの経験がある方があまりおらず、皆さん興味津々でとても喜んでおられた。

日中活動

万崎の郷

昨年度同様、午前中は体力作りの後、木管作業や機能訓練等個々のメニューに取り組んだ。午後からは、園芸活動や造形、調理体験、レクリエーションなど季節に合わせた活動を意識し提供した。報酬単価改定に伴って増えた活動時間については、午後のプログラムの前に室内清掃をすることで、大

きな混乱もなく皆さんスムーズに受け入れられていた。

一週間の流れや一日の流れが定着し、一人一人が安定して過ごせるようになってきている。次年度は日中活動の幅を広げ、より充実した時間を過ごして頂ける様努めたい。

もみの木

今年度も午前中は作業中心に、午後からは近隣や狭山池・荒山公園等にドライブに出かけて散歩など体を動かすメニューを中心に取り組んだ。また室内の活動では、製作で壁一面の大作の貼り絵を皆で協力して取り組み、喜びや達成感を味わって頂けた。その他レクリエーション・調理体験・カラオケなども取り入れて、ゆっくり楽しむ時間も提供することができた。

引き続き次年度も、充実した余暇支援が提供できる様考え、取り組んでいきたい。

防災

地震・火災避難訓練（自主訓練）

[万崎の郷] 6月21日（金） [もみの木] 6月19日（水）

火災避難訓練（自主訓練）

[万崎の郷] 11月15日（金） [もみの木] 11月20日（水）

非常災害避難訓練（大規模地震時）

[万崎の郷] 5月13日（月） [もみの木] 5月17日（金）

AED使用・胸骨圧迫訓練実施

[万崎の郷] 1月 [もみの木] 2月

<反省>

万崎の郷・火災発生時、火元から離れた経路での避難がしっかりできていた。

- ・消防署より、今年度から極力自主訓練でお願いしたいとの話を受け、すべて自主訓練を行っている。どの訓練においても今まで以上に緊張感をもって取り組むように心がけ、実践できたように思う。

もみの木・火災避難訓練では、口を押えて避難している方が少なく、声掛け誘導時に徹底するような声掛けが必要だった。

- ・非常災害避難訓練…避難場所、避難経路の確認をした。車いすも利用し、道路や近隣の建物の状況などの確認もできた。

研修

実施日	テーマ及び講師	備考
令和6年 11月4日	「一人で抱え込まない、チーム支援」 場所：堺あすなろ園 講師：さわらび診療所 精神科医 稲垣 亮佑氏	法人研修
令和6年 [万崎の郷] 12月17日 [もみの木] 12月16日	交通安全講習会 「令和6年度堺あすなろ会 事故・トラブル発生状況」 「交通事故 被害者遺族の無念・加害者の後悔」 ～安全運転啓発ビデオ研修～ 講師：車両管理部長 岩井 正信氏	
毎月	ケース会議（各利用者の近況報告・検討会議を行う。）	年11回
3ヶ月に一回	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会 虐待防止研修として、事例検討を行う。（年1回）	各事業所にて
令和7年 1月24日	「レクを通して楽しい実践を」「他施設と情報交換しよう」 講師 水流 寛二氏	実践交流会
令和6年 [万崎の郷] 4月16日・5月14日 [もみの木] 4月17日・5月15日	BCP計画（非常災害・感染症）に基づく研修及び訓練 ・感染症予防対策と感染症発生時の対応について周知。 動画を参考に感染症発生時の消毒・清掃の手順について確認・訓練を行う。 ・自然災害対策業務継続計画について、大規模災害時を想定し、その対応について周知する。	今年度より義務化

<課題と反省>

昨年度に引き続き法人研修では、精神科医稲垣先生よりご教授頂いた。より福祉職として持つべき視点や専門性・チームによる支援について学ぶことができたが、職員の階層別の研修も今後必要だと感じた。実践交流会では他施設とレクリエーションを通しての交流や意見交換する場があり、日々の活動内容や支援・悩みなど情報交換ができたことが良かった。

保健

<健康診断>1回目 5月10日(金) 2回目11月1日(木)

(内容)胸部レントゲン・心電図(女性)・血液検査・尿検査・血圧・体重

<歯科検診>1回目 6月15日(木) 2回目 11月21日(木)

<ヘルスチェック>

毎月1回、体重・血圧・脈拍・体温の測定を行う。

<ドクター相談>

毎月1回、嘱託医(内科医)往診。

<看護師巡回>

毎月1回、法人内看護師による巡回。各事業所の利用者の健康管理。

<感染症対策>

■新型コロナウイルスの感染予防対策

- ・通所時及び帰宅前の手洗い・アルコール消毒
- ・検温(通所後、帰宅前)
- ・うがい、手洗いをこまめに行う。室内換気。適宜マスク着用。

授産活動

万崎の郷

昨年度に引き続き、野菜の販売や木管・廃品回収で得た収入で利用者工賃を支給している。野菜作りに関しては、夏の猛暑など天候の影響で上手く育たないものもあったが、夏以外の時期に収穫する野菜は、比較的良く育ち塚あすなろ園の給食などに販売することができた。次年度も個々のニーズに合った活動を提供し、野菜作りにも力を入れて取り組んでいきたい。

もみの木

中谷金属工業(株)の受注が一時中断していたが、今までの仕事以外で様々な仕事を受注出来るようになり、作業を継続することができている。塩久印刷紙器(株)に関しても、安定して作業を受注出来ていた。しかし、OM ネットワークに関しては、今まで主に受注していた入浴剤・コーヒー・紅茶などの箱詰め作業の入荷が止まり、受注出来る作業が無くなってきている。その為、今後新しい作業の開拓が必要と思われる。

引き続き、作業をすることにやりがいや楽しみを感じて頂ける様に、また個々のニーズに合った活動も検討し提供していけるように努めていきたい。

<授産収支>

	収入	支出 (うち工賃支出)	収支差額	利用者1人当たりの 平均工賃/月
万崎の郷	65,690円	63,815円 (21,000円)	1,875円	145.8円
もみの木	145,143円	171,756円 (143,100円)	-26,613円	1,490.6円
合計	210,833円	235,571円 (164,100円)	-24,738円	

令和6年度 アトリエhana 事業報告

(アトリエhana・ゆめ工房・Link みいけ)

利用者数 (令和7年3月31日現在)

	定員	現員	平均利用者数	定員に対する稼働率
アトリエhana (生活介護)	10	10	7.99	80%
ゆめ工房 (就労継続B型)	10	11	10.11	101%
Link みいけ (就労継続B型)	10	9	7.87	79%
合計	30	30	25.97	86.6%

《利用者の入退所状況》

	退所者数	入所者数
アトリエhana (生活介護)	2	1
ゆめ工房 (就労継続B型)	1	0
Link みいけ (就労継続B型)	0	0
合計	3	1

＜事業の統括＞

個別支援計画に基づき、ご家族・相談支援事業所等の関係機関との連携を図りながら利用者本位の支援を行った。利用者の希望を伺いながら余暇支援を実施することができた。

行事

	事業所名	日程	行き先
春の行楽 行事	アトリエhana	5月13日(火)	あべのハルカス
	ゆめ工房	6月5日(水)	原池公園バーベキュー
	Link みいけ	5月17日(金)	森の小径・岸和田だんじり会館
秋の行楽 行事	アトリエhana	11月19日(火)	大阪市立科学館
	ゆめ工房	12月5日(木)	ラウンドワン(スポッチャ)
	Link みいけ	11月22日(金)	ニフレル
新年会 又は お食事会	アトリエhana	1月7日(火)	ゆず庵
	ゆめ工房	2月5日(土)	ビュッフェレストランパンパレット
	Link みいけ	2月9日(金)	カフェ・マーノ・コープラボ

防災

[アトリエhana]	7月25日(火)	火災避難訓練(自主訓練)
[ゆめ工房]	8月28日(水)	火災避難訓練(自主訓練)・非常災害避難訓練
	3月5日(水)	地震火災避難訓練(自主訓練)・非常災害避難訓練
[Link みいけ]	5月27日(月)	非常災害避難訓練
	6月15日(土)	火災避難訓練(自主訓練)

保健

- ＜健康診断＞ 1回目 5月10日(金) 2回目 11月1日(金)
(内容) 胸部レントゲン・心電図(女性)・血液検査・尿検査・血圧・体重
- ＜歯科検診＞ 1回目 6月15日(木) 2回目 11月21日(木)
- ＜ヘルスチェック＞ 毎月1回、体重・血圧・脈拍・体温の測定を行う。
- ＜ドクター相談＞ 毎月1回、嘱託医(内科医) 往診。
- ＜看護師巡回＞ 毎月1回、法人内看護師による巡回。各事業所の利用者の健康管理。
- ＜感染症対策＞
 - ・検温(朝・夕2回。その他必要に応じて昼にも1回。)
 - ・外出から戻った際の手洗い、送迎車乗車前のアルコール消毒

- ・定期的な室内換気
- ・ドアノブ等の消毒など
- ・感染症についての利用者学習会実施

研修

実施日	テーマ及び講師	備考
令和6年 11月4日	「一人で抱え込まないチーム支援」 場所：堺あすなろ園 講師：さわらび診療所 精神科医 稲垣 亮祐氏	法人研修
令和6年 12月	「安全運転講習」 講師：車両管理部長 岩井正信氏	各事業所にて
令和5年 8月25日	実践交流会 テーマ「レクについての体験学習・交流会」 講師： 水流寛二氏	ファインプラザ 大阪
3ヶ月に一回	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会	各事業所にて
毎月	ケース会議（各利用者の近況報告・検討会議を行う。）	年12回

【アトリエ hana】

<生活介護>

12名の利用者でスタートし、7月に他サービス利用の為退所、12月に区分変更による退所、新規利用契約がそれぞれ1名あった。6月末より体調不良による長期欠席の1名を含め、10名の利用者にて年度を終えた。

日中活動として、季節に応じた事業所内でのイベントを計画した。フラダンスの先生に來所いただき、教わった曲を日々練習し、発表の機会を持つことができた。また、調理実習を毎月実施し、利用者でメニュー・調理等の担当を決め意向に沿いながら進めることができた。健康管理については、看護師の助言のもと日々の観察・バイタルチェックを通じて、体調異変等が見られた時には関係機関との連携を図り速やかに対応することができた。

授産活動についてはトールペイント製品を製作、店頭、パッセ店舗、堺市博物館等で販売した。

令和6年度初めての取り組みとして、堺市が実施している「みどり活動支援事業」に応募し、アトリエ hana 店舗前にある円形花壇の管理を利用者とともにいった。春には桜草・フリージア等の花が咲き、近隣の方々が足を止めて鑑賞されていた。

<授産活動>

トールペイント・・・自主製品の製作、販売

T2企画・・・ソロキャンプ用鉄板の封入

委託販売・・・(株)カワニシ（地域小学校からの依頼による体操服等の販売）

<その他の活動>

買い物・調理実習・ドライブ・映画動画鑑賞・壁面製作・カレンダー作り等

ウォーキング 体操（TVを使用してのストレッチ・体操等）ストレッチ

利用者自治会活動（余暇についての意見交換・調理実習メニュー・担当決め等）

【ゆめ工房】

<就労継続支援B型>

12名でのスタートで、6月に特例子会社（障害者雇用の促進および安定を目的として設立される子会社）への就職のため1名退所があり、11名の利用者にて年度を終えた。

授産活動については、長らく休止となっていた支援学校への出張販売が再開し、利用者の販売同行の機会を多く持つことができた。

<授産活動>

自主製品（シフォンケーキ・パイ等焼き菓子）製造

自主製品出張販売（地域中学校・東区役所等）

（株）大賀（検査キットの組み立て・セット・封入）

<その他の活動>

清掃・調理実習・ドライブ・映画鑑賞・壁面制作

利用者自治会活動（余暇についての意見交換・調理実習メニュー・担当決め等）

エアロビクス（リズム体操）…月1回講師の先生に來所いただき身体を動かす。

【Link みいけ】

<就労継続支援B型>

9名の利用者とスタートし、利用者の増減なく9名の在籍にて年度を終えた。授産については一年を通して下請け作業は途切れることはなかった。ソロキャンプ用鉄板の梱包作業については、スペースの都合上アトリエ hana にて請け負うことになった。

地域への活動については、近隣センター（花植え・門当番等）、校区内イベントには例年通り参加した。地域会館で開催された御池文化祭では、利用者の作品として「書道」を出展した。

余暇等については主に土曜日に長距離ウォーキング、ドライブを積極的に取り入れた。

<授産活動>

店舗委託販売（堺あすなろ会自主製品・陶芸・体操服（カワニシ））

下請作業（株）大賀：検査キットの組み立て・封入

森井製作所：スイッチロック（ばね）の組み立て

OM ネットワーク（雑貨の封入れ）

<その他の活動>

・体操（毎日午後）・清掃活動・壁面制作・ウォーキング・ドライブ等

<授産収支>

	収入	支出 (うち工賃支出)	収支差額	利用者1人当たりの 平均工賃/月
アトリエ hana	563,161 円	287,586 円 (106,200 円)	275,605 円	1,264 円
ゆめ工房	2,166,378 円	2,393,974 円 (1,409,500 円)	-227,596 円	11,745 円
Link みいけ	564,491 円	960,574 円 (908,500 円)	-396,083 円	9,832 円
合計	3,294,030 円	3,642,134 円 (2,424,200 円)	-348,074 円	

成人部通所事業所 今年度のまとめ

- ①利用者一人ひとりの意思やニーズを把握し、より良い支援が行えるよう個別支援計画を立案し課題を常に目標において支援する。
→各事業所の特性を生かし、体力作りや余暇活動、畑作業、製造販売、交流会などに取り組む。春秋の行楽行事、お食事会など集団で外出し、様々な経験を通して見聞を広めることができた。
- ②研修の機会を設け、学んだことを職員全体で情報を共有し研鑽を積み支援に生かしていく。
虐待防止・身体拘束適正化などの研修を行い、人権擁護の意識を高めていくよう努める。
→各事業所において定期的に虐待防止委員会や身体拘束適正化委員会を開催し、利用者の人権を尊重し生命や安全を保護し、利用者の方が主体的に生活できるよう支援する。また、権利擁護及び虐待防止についてヒヤリハットや事故、事例など検討し日々の実践を振り返り支援に生かせるよう研修を行った。
- ③成人病や感染症の予防に努め、体力や機能面の維持向上をめざし、健康に過ごせるようにする。
日々のバイタルや健康診断の結果など、体調の変化に気づき家族や関係機関と連絡を取り合い今後も迅速に対応していきたい。
→個々の体力に合わせ、散歩やリズム体操を行ったりレクリエーションを行ったりして、楽しんで体力の維持に努め健康に過ごせるようにした。数名ではあったが、コロナやインフルエンザなど感染症の罹患が見られた。手洗い、消毒や換気など感染症の予防を徹底して行った。常に利用者の方の体調に留意し早急に対応するよう取り組んだ。
- ④利用者の高齢化や家庭環境の変化に伴い、家族や関係機関と更に連携を図り、利用者の想いや状況に対応していけるよう支援する。高齢や重度の利用者が、より安全に充実した活動や支援が行えるよう体制や活動内容を検討し進めていく。
→緊急時に備え、入所施設（短期入所）や地域支援などとの連携を密に取り、家族や利用者の希望や状況に合わせ対応した。高齢の利用者の中には、障害福祉サービスから介護サービスへと移行された方もいらっしまった。また、希望され体験などを通してグループホームに入居される方もいらっしまった。
- ⑤利用者の確保について、関係機関との情報共有を進め、事業所説明会に積極的に参加し新規利用者の確保に繋げていきたい。また、見学や体験などを行い、一人ひとりに応じた活動の場を検討し、場合によっては移動することも検討していく。
→支援学校の説明会の参加や見学・実習また放デイ利用児童のお仕事体験などを行った。様々な要因が考えられるが、通所事業所の利用者が減少しており運営面でも厳しい事業所も出てきている。通所事業所全体で連携し、より充実した運営や活動が行えるよう再編成を検討している。
- ⑥施設祭りや地域清掃等、地域における公益的な取り組みを行い、地域の方とのふれ合いを深めていく。
→地域清掃を継続して行ったり、地域の文化祭やイベントに参加したりした。
- ⑦地震、風水害等様々な災害に備え、ご家族・各事業所・各関係機関などとの情報共有や円滑な連絡体制を構築し、協力連携し合えるようにする。非常時に備え、食料や備品を整備する。避難や救急蘇生法など訓練を行い、安全に迅速に対応していきたい。感染症や自然災害の緊急時に備え、BCP(事業継続計画)を作成し安全に対応できるようにする。
→地震や火災避難訓練において消防署より極力自主訓練でお願いしたいとのことで、届け出を提出し、自主訓練を行った。令和7年1月に堺市福祉避難所マニュアルが改訂され、福祉避難所連絡会も開催され参加した。また、堺市より各地域での避難行動要支援者(避難要配慮者)への登録が進められている。自然災害や感染症のBCP(事業継続計画)の周知と見直し、備蓄などの点検を行い、安全に迅速に対応できるよう取り組んだ。
- ⑧令和6年度4月より障害福祉サービス等の報酬改定が行われる。通所事業所の生活介護事業においては、日中の活動時間により報酬が決定されることとなった。そこで、堺あすなろ会の成人通所事業所では、10時から16時の6時間の活動時間を確保するよう体制を組む予定にしている。その為送迎コースにより、送迎時間の変更がある場合がある。利用者・ご家族に丁寧に説明し、ご理解ご協力をお願いしていく。
→通所事業所の活動時間が10時から16時へと変更になり、送迎時間や活動内容などの変更など戸惑った利用者もいらっしまったが、徐々に慣れ、活動の幅が広がり充実して過ごすことができるようになってきた。

令和6年度 共同生活援助（グループホーム） 事業報告

この1年間における成果・課題は以下の通りである。

<成果>

① 空床少なく安定した運営

令和6年4月1日付で1名の退居者があったが、新規入居者も決まり、令和7年3月末現在定員48名に対して47名が入居中である。今後も高齢化に伴い住居移転の必要がある利用者が見込まれるが、地域生活支援センターフィットウェルとの連携や地域との良好な関係を活かし、できるだけ長期間欠員が出ないように努めたい。

② 災害備蓄品の整備

これまで、各ホームごとに災害への備えとして食料品等備蓄をしていたが、より責任をもって管理するため運用を改善。食料品に限らず災害発生後3日程度必要となる備品（電源の確保、簡易トイレ等）についてリストを作成。今後定期的に備品管理が可能な体制を整えた。

③ ICT活用による業務効率化

各ホームが一か所に集中せず、各地域に点在していることから、様々な業務が非効率になりやすい環境にある。特に情報の収集や発信を効率化することが重要であるため、利用者記録システム「ケアコロボ」を導入し、利用者の状況把握や世話人からの申し送り事項をいち早くキャッチする体制を整えてきた。

また、令和6年度7月からは「ケアズ・コネクト」を導入。シフト作成から打刻、勤怠届までをすべてスマートフォン上で行える体制に移行した。これによりシフト作成業務が迅速に行えるようになり、世話人からの勤怠届に対する承認や有給日数の管理までを一括して管理できるようになった。

昨年度に引き続き「ロボット導入支援事業」を活用し、「眠りスキャン」9台を導入。夜間の見守り体制に活かすとともに、医療機関受診時にも役立つ情報となっている。（令和7年3月末現在3ホームに19台導入済み）

④ 医療受診体制

医療を必要とする利用者が、必要な時に治療を受けられる体制を整えるため、令和3年度以降一部のグループホームにおいて訪問診療の活用を進めている。内科・精神科訪問診療の活用により、定期的な受診機会が得られ、体調に関する相談ができる体制となっている。また、体調不良時には往診が可能であり、迅速な受診と薬の処方が可能な体制が整っている。

歯科についても一部ホームで訪問診療を実施することにより、虫歯の早期発見や歯周病予防につながっている。

今後も訪問診療機関との連携を図るとともに、未利用のホームにおける訪問診療の活用や訪問看護ステーションとの連携について検討し、医療機関との連携を深めていきたい。

⑤ 経験豊富な職員の配置と職員間連携

やむを得ない事情により令和6年度は管理者、サービス管理責任者（グループホームあすなる）の交替があった。十分な引継ぎができないまま職員が業務を受け継いだことも影響し、各職員にかかる負担は大きかったが、各職員の経験とチームワークにより困難を乗り越えることができた。多忙な中においても週1回のミーティング、月1回の職員会議を継続し、課題の共有と迅速な対応により利用者への支援の質を下げることなく業務にあたることができた。

<課題>

① 利用者の高齢化

利用者の高齢化に伴い一部利用者に身体機能および認知機能の低下がみられ、従来の支援体制や住環

境では十分にニーズに応えることが難しくなっている。

高齢化への対応は、「住環境」「介護技術および介護体制」「医療との連携」が重要であるが、従来のグループホーム制度では日中の世話人配置がなく、高齢になり、ゆったりと暮らしたいと思っても十分に対応できていないのが現状である。できる限り長年暮らしてきたグループホームでの生活が継続できることが基本であるが、必要に応じて介護保険事業者とも連携し、利用者にとってより適切な場において生活を送ることができるよう柔軟に支援しているところである。

特に公営住宅においては、エレベーターのない環境、室内段差などの課題解消は困難であることから、移転を進めていくことが望ましい。

② 世話人の高齢化及び人員の確保

多くの世話人は各ホームの開設当初から利用者の支援に携わっており、利用者と共に年数を重ねてきている。利用者にとって安心できる存在であり、各利用者の安心安全な生活に大きく貢献しているといえるが、一方で世話人の高齢化に伴うケガや病気、家族の介護等を理由とした休暇が必要になるなど支援体制の脆弱さが年々浮き彫りになっている。

現在勤務する世話人の年齢は65歳以上が半数を超える状況にある。その中でも令和6年度中に75歳を迎える世話人が1名勤務しているため代替となる世話人を募集してきた。しかしながら年度内に採用のめどが立たず、契約を延長せざるを得ない状況となっているため、引き続き募集を継続していく。令和7年度も1名、令和8年度は2名が75歳を迎えるため、できるだけ計画的に新規世話人の採用を進めていく必要がある。

③ グループホームの新設・グループホームの効率的な運営等

2020年10月にグループホームいずみを開設して以来、新たな入居ニーズへの対応について具体的な検討は進んでいない。また、市内9カ所あるグループホームについても利用者の高齢化や非効率な運営を改善していくため再編が必要になると見込まれる。これら課題について引き続き具体的な検討を進めていく必要がある。

<入居者状況> 令和7年3月31日現在

ホーム名	定員	内訳	退去者	新規入居者	現員
あすなろ	5	男5	0	0	5
ラピスクさべ	7	男4、女3	0	0	7
ラリマ福泉	5	男5	1	1	5
くさべ	4	男2、女2	0	1	4
こさか	4	男2、女2	0	0	4
サンももやま	5	男3、女2	0	0	4
第2ももやま	5	男5	0	2	5
いずみ	9	男9	0	1	9
北斗	4	男4	0	0	4
計	48	男39、女9	1	4	47人

<住宅種別> 令和7年3月31日現在

サンももやま	府営住宅2室 1階	第2ももやま	府営住宅2室 4階
北斗	戸建て2階	いずみ	専用住宅1階
あすなろ	戸建て2階	ラリマ福泉	専用住宅1階
ラピスクさべ	専用住宅1階	くさべ	府営住宅2室 5階
こさか	市営住宅2室 1階		

<各ホームの支援体制> ※休日体制の◎は日中支援体制あり 令和7年3月31日現在

ホーム名	管理者	サビ管	生活支援員	世話人・生活支援員	宿直体制	休日体制
あすなろ	1名	1名	3名	2名	×	○
ラピスくさべ				8名	○	◎
ラリマ福泉				8名	○	◎
くさべ				2名	×	○
こさか				6名	○	○
サンももやま		1名		5名	○	◎
第2ももやま				4名	○	○
いずみ				10名	○	◎
北斗				2名	×	○

<障害支援区分別の入居者数> 令和7年3月31日現在

非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
0	1	3	15	18	7	3	47

<利用者の年齢> 令和7年3月31日現在

10～	20～	30～	40～	50～	60～	65～	70～	75～
1名	1名	4名	10名	21名	6名	1名	3名	0名

令和6年度 地域生活支援センター「フィットウェル」事業報告

1. 計画相談支援・障害児相談支援（令和7年3月31日現在）

・契約者数...計画相談支援 307名、障害児相談支援 56名、地域定着支援 41名

2. 計画相談支援（サービス等利用計画作成件数）※（ ）内は令和5年度

指定障害児相談支援（障害児支援利用計画作成件数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	35 (30)	21 (18)	28 (29)	38 (37)	25 (25)	32 (23)	38 (39)	30 (22)	27 (25)	24 (26)	38 (29)	35 (30)	367 (333)

モニタリング件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	128 (130)	123 (116)	109 (109)	119 (109)	109 (109)	123 (124)	113 (113)	123 (119)	121 (124)	103 (108)	103 (139)	130 (130)	1,402 (1430)

3. 指定一般相談支援 ※（ ）内は令和5年度

地域定着支援契約者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	41 (40)	41 (40)	41 (40)	41 (40)	42 (40)	43 (41)	43 (42)	43 (42)	43 (42)	43 (41)	41 (41)	41 (41)	503 (490)

地域定着支援における緊急時支援実施件数 ※（ ）内は令和5年度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0 (2)	4 (1)	1 (0)	7 (3)	3 (3)	0 (1)	4 (0)	1 (0)	0 (2)	1 (5)	4 (2)	3 (1)	28 (20)

◎地域移行支援契約者数...1名(入所施設からグループホームへ地域移行)

4. 会議又は研修への出席

会議	研修・講師
<ul style="list-style-type: none"> ・南区障害者自立支援協議会（年7回） ・南区指定相談支援事業所連絡会（月1回） ・堺市障害者相談支援専門員協会（月1回） ・所内会議（年6回） ・主任相談支援専門員連絡会（年2回） 	<p>【研修】</p> <p>各関係機関主催による研修会：随時 医療的ケア児コーディネーター養成研修 虐待防止研修</p> <p>【講師】</p> <p>新任相談支援専門員のための連続勉強会（第3回講師）</p>

5. 今年度の総括

昨年度は退職者があり常勤専従3名、常勤兼務2名、非常勤兼務2名の7名体制で従事してきたため、一人当たりの相談支援件数が増えた。7月以降 ICT 化の活用により積極的に業務を効率化。クラウド管理、電子署名の導入、電子申請の活用により業務が効率化され、職員も環境に徐々に慣れてきたところ。時間の有効活用やペーパーレス化、FAX 送信や郵送に係る費用削減につながった。

今年度から高次脳機能障害支援体制加算が創設され、行動障害支援体制加算・要医療児者支援体制加算・精神障害者支援体制加算とあわせ報酬単価が上がった。当事業所は、高次脳機能障害支援体制加算は該当研修受講者がおらず未取得であるが、その他加算については条件を満たし、増収につながった。

当事業所は相談支援専門員のうち3名が主任相談支援専門員であり、新任相談支援専門員の連続勉強会への協力や、南区障害者指定相談事業所連絡会への参加など、地域の相談支援事業者をサポートする役割を担っている。また、事業所としても積み重ねた相談援助技術のノウハウを活かして、地域社会に貢献するため、新規に開設する相談支援事業所に対するコンサルテーション事業を令和3年度より実施している。令和6年度は3事業所の相談に応じ、開設前段階から運営のノウハウや相談支援専門員としての心構え、相談支援を行う上でのポイント等についてアドバイス。個々の経験に応じた対応を行ってきた。この間かかわってきた事業所からは、わからないことがあれば相談の連絡が入るなどしており、随時対応している。今後も地域の相談支援がより充実するよう積極的に取り組んでいきたい。

指定特定相談支援、障害児相談支援については引き続き多くの方に利用いただき、サービス利用のための計画案作成やサービス利用状況を確認するためのモニタリングを実施。障害者総合支援法となる以前より関わる利用者はすでに10年以上の関わりがあり、利用者には日常生活を送るうえで安心して相談いただける機関となっている。また、当事業所が信頼できる機関であり続けるために相談支援専門員間の情報共有や助言指導が随時受けられる体制に重きを置き、毎日のミーティングでの経過把握および情報の共有、管理者による助言指導が随時受けられるよう心掛け、相談員同士の横のつながりも大切にしてきた。

指定一般相談支援（地域定着支援）においては主に地域で一人暮らしをしている方や高齢の家族と暮らす方と契約し、地域で安心して生活が続けられるよう、24時間体制で利用者からの電話による相談を受けるとともに、必要に応じて利用者の障害特性に起因した緊急事態に対し、電話や訪問による対応を行い、利用者の救急搬送時や急な体調不良、住宅のトラブルなど緊急時に必要な支援を行った。

相談支援専門員は地域支援部の一員としてグループホームや地域活動支援センターと協力し合い、相談支援専門員が持っている各制度に対する知識を生かしながら日々の業務を行っている。今後も「理念に基づいた支援」「法令の遵守」「チーム支援」「資質の向上」「関係機関とのネットワーク」「社会への貢献」をキーワードに取り組み、地域に暮らす障害のある方やそのご家族にとって必要とされる相談員、事業所となれるよう研鑽を積み重ねていきたい。

令和6年度 地域活動支援センター「わかば」事業報告

1. 契約者の状況（令和7年3月31日現在）

(1) 契約者数 78名（男性49名 女性29名）

(2) 主たる障害種別

身体障害	知的障害	精神障害
1	69	8

(3) 年齢層

～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～64歳	65歳～
1	17	12	18	25	2	3

2. 延べ通所者数（令和7年3月31日現在）

障害種別	延べ通所者数	18歳以上 65歳未満	65歳以上
身体障害	0	0	0
知的障害	1,816	1,766	50
精神障害	367	367	0
小計	2,183	2,133	50
見学・体験者数	99	99	0
合計	2,282	2,232	50

3. 月別平均利用者数（令和6年4月～令和7年3月）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
8.7	8.2	8.3	8.3	7.5	8.5	7.9	8.1	10.3	9.6	8.8	9.6

4. 事業の総括

(1) 事業運営体制

今年度新たに3年間（令和6年度～8年度）の契約で、堺市より地域活動支援センター運営業務（居場所支援型）の業務委託を受けた。仕様書より居場所支援型は平日の夜間または休日に開所する必要があることから、開所時間を平日（火曜日～金曜日）は12時から18時、日曜日は10時から17時とした。職員は常勤専従1名、常勤兼務1名、非常勤兼務2名の合計4名で、平日は1名、日曜日は2名体制で運営を行った。プログラム実施の際には地域支援部職員の協力もあり、より利用者の安全や事業の円滑な実施ができた。

(2) 基礎的業務

①居場所の提供

利用者に寄り添った支援を行うことを念頭に、特に平日の日中は障害福祉サービスの利用が困難となっている方が、安心して過ごすことができる環境づくりを心掛け、席の配置などに工夫をこらした。一方1日の平均利用者数の目標を10名程度としているものの平均利用者数は年間で1日あたり8.65名と目標には至らなかった。要因として平日の利用者数が少ないことがあげられることから、地域の相談支援事業所や障害者基幹相談支援センターとの関係を密にし、地域で必要とされるセンターとなるよう努めたい。

②グループワーク（プログラム支援）

当事者活動（さくら会）の支援のほか、在宅生活が長くなっている方の余暇活動（のんびり会）、鉄道など趣味を通じた交流の場（わかば鉄道）、女子会など利用者同士の交流の機会を設けたほか、毎月1回利用者によるミーティングを行いプログラムの内容を検討するなど、利用者主体の活動を行った。プログラムの中では自然と利用者同士の声掛けや助け合い（ピアサポート）が行われ、職員との関係性では見られないような利用者の表情が見られることも多くあった。

プログラム名称	延べ 活動回数	延べ 参加者数	プログラム名称	延べ 活動回数	延べ 参加者数
さくら会	12 回	168 人	夏祭り準備	1 回	2 人
さくら会実行委員会	12 回	34 人	夏祭り	2 回	22 人
のんびり会	12 回	45 人	かき氷	2 回	7 人
わかば鉄道	12 回	81 人	ふうせんバレー練習会	1 回	2 人
わかばミーティング	12 回	143 人	ふうせんバレー大会	1 回	10 人
Wii (ゲーム)	187 回	692 人	サティーンワンアイスクリーム (外出)	1 回	17 人
ダーツ	4 回	5 人	地震避難訓練	1 回	9 人
トランプ	17 回	70 人	女子会	1 回	6 人
お弁当を持って公園へ行こう	3 回	27 人	マグカップ絵付け	1 回	8 人
ゲーム大会	3 回	19 人	クリスマス会	1 回	27 人
カラオケ	3 回	30 人	書き納め	1 回	7 人
デザートタイム	3 回	31 人	忘年会	1 回	29 人
お菓子作り	2 回	36 人	初詣	1 回	10 人
ホットケーキ作り	2 回	27 人	白玉ぜんざい	1 回	19 人
カラオケ外出	1 回	16 人	映画上映会	1 回	9 人
お菓子の袋でポーチ作り	2 回	15 人	チョコ作り	1 回	23 人
延べ活動回数 (合計)	305 回		延べ参加者数 (合計)	1,646 人	

(3) 専門的業務

利用者からの個別の相談に対しては、常に権利擁護の視点と、利用者や家族が主体的に行動できることを意識した助言を行った。具体的な相談としては、日常生活や通所先、就労先での人間関係の悩み、食事の内容や食事方法に関する助言、インターネットでの買い物やチケットの購入、行政等からの郵便物の内容確認など、利用者にとって不利益につながらないように、職員が気づいた際には積極的に声掛けを行ったほか、必要に応じて相談支援専門員等と情報共有を行った。

(4) 関係機関との連携

圏域内の地域福祉課や保健センター、障害者基幹相談支援センター、障害者就業・生活支援センターに毎月職員が出向き、活動の周知ならびに利用者支援に関する情報交換を行うなど関係づくりに努めた。また相談支援専門員等からの要請があれば担当者会議に出席した。今年度も堺市地域活動支援センター連絡協議会に幹事センターとして参画し、市内のセンターとの情報交換を図り、より良い地域活動支援センターづくりに努めた。

(5) その他

①情報発信の取り組み

毎月1回、活動内容の報告と、開所日やプログラムの内容を掲載したわかば通信・カレンダーを発行し、圏域内の区役所等に設置を依頼したほか、公式LINEから閲覧できるようにした。プログラムの様子については、写真を交え法人のブログに掲載した。情報発信が早いほど利用者の申し込みが多くなる傾向から毎月15日に発行できるよう努めたい。

②ICTの活用による効率的な支援及びセキュリティ対策の強化

職員間の連絡手段としてLINEWORKSの活用、業務日誌やアセスメントシート等個人情報を含むデータはクラウドストレージに保管しペーパーレス化に取り組んだ。引き続きウイルスなど外部からの脅威に限らず内部からの情報漏洩を防ぐため職員に意識向上のための定期的にアンケートを実施するとともに、IT資産管理ソフトを導入し情報の適切な管理に努める。

令和6年度 居宅介護・移動支援「陽だまり」事業報告

令和6年度も前年度に比べて大きな変化はありません。スタッフはサービス提供責任者1名を配置し運営しています。障害をお持ちの方の外出支援として、とても有効な制度です。引き続きニーズに応えられる体制作りを検討していきたいと考えます。

令和5年度・令和6年度の実績は次の通りです。

利用人数	令和5年度	令和6年度
移動支援	370名(月平均30名)	436名(月平均36名)
知的障害者(在宅)	75名(月平均6名)	95名(月平均8名)
知的障害者(施設入所者)	224名(月平均19名)	217名(月平均18名)
グループ支援(1:2)	33名(月平均3名)	38名(月平均3名)
グループ支援(1:3)	30名(月平均2名)	36名(月平均2名)
グループ支援(1:4)	8名(月平均1名)	50名(月平均4名)
身体介護	36名(月平均3名)	34名(月平均3名)
家事援助	0名	0名
合計	406名(月平均33名)	470名(月平均39名)

利用時間	令和5年度	令和6年度
移動支援	2,738.5時間(月平均228時間)	3,025時間(月平均252時間)
知的障害者(在宅)	790時間(月平均66時間)	1,128時間(月平均94時間)
知的障害者(施設入所者)	1,876.5時間(月平均156時間)	1,821時間(月平均151時間)
グループ支援(1:2)	72時間(月平均6時間)	38時間(月平均3時間)
グループ支援(1:3)	66時間(月平均5時間)	36時間(月平均3時間)
グループ支援(1:4)	8時間(月平均1時間)	50時間(月平均4時間)
身体介護	130.5時間(月平均11時間)	143時間(月平均12時間)
家事援助	0時間	0時間
合計	2,869時間(月平均239時間)	3,168時間(月平均264時間)

	令和5年度	令和6年度
登録ヘルパー(実動者)	12名	15名

令和6年度 障害児通所支援事業 事業報告

(Link みいけ・Link にわしろ・Link ふかい)

Link みいけ (放課後等デイサービス)

<利用者数> (令和7年3月31日時点) 開所日数：289日

	定員	登録者数	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率
放課後等デイサービス	10名	25名	2,442名	8.4名	84%

≪活動内容≫

① 課題

個々の状況に応じた内容のプリント課題や自立課題（作業訓練的なものも含む）や学校の宿題に取り組んだ。日々取り組んだプリント等はファイリングし、振り返りが出来るよう整えた。

② 運動

近隣の公園などに出かけ、大型遊具や持参したスポーツ道具（バドミントンやボールなど）を使い体を動かす活動を多く取り入れた。

中学生以上においては、目標を設定し、緑道などをウォーキングする活動を取り入れた。広場では、ボール遊びや鬼ごっこなどルールを守りながら他児とコミュニケーションが図れるような活動を多く取り入れるようにした。

月に2回「Link にわしろ」と合同で外部コーチによる指導の下「運動療育支援プログラム」を実施。体幹の強化、体の使い方、バランスを保つ等为目标に取り組んだ。長期休暇期間はフラインプラザの体育館を利用した。

③ 創作

季節や日本の伝統行事に合わせた内容を設定し、取り組んだ。

5月	こいのぼり（壁面飾り）	丸シールを使って
6月	あじさい（壁面飾り）	折り紙を使って、ちぎり絵
7月	七夕飾り	飾り、短冊作り
8月	金魚 雑巾	お花紙を使って ミシンを使って
9月	カエルの吹きもどし 手ぬぐいでエコバック （敬老の日プレゼント）	自分で作ったおもちゃで遊ぼう ミシンを使って、1枚の手ぬぐいからエコバックを作る
10月	my ハロウィンおぼけ	自分の顔写真にペイント
11月	秋BOX	公園で秋探し、ティッシュ箱にレイアウト
12月	クリスマス木工制作（サンタさん）	のこぎりを使って木材を切る、やすりをかけ、色を塗る。飾りつけをして仕上げ。
2月 3月	干支キーホルダー	フェルトを使って、自分の干支・イニシャルを貼る。

④ 陶芸

月に4回、講師の方に来ていただき実施。

個別指導にて行い一日4名程度参加する。作品により異なるが、1人1回15～20分程度取り組む。

⑤ 音楽療法

月2回、音楽療法士2名に来ていただき実施。第1・4水曜日。

1日2セッション行う。1セッション30分、5名程度ずつの参加。

グループは、小学生・高学年～高校生に分けて実施する。参加児童：12名

⑥ 余暇支援

様々な活動を取り入れ、経験値を上げていけるよう取り組んだ。

4月27日(土)	6名	いちご狩り	10月5日(土)	7名	御池文化祭
5月25日(土)	5名	トナリエにて昼食購入	10月19日(土)	6名	神戸バンド青少年科学館 (にわしろ合同)
6月22日(土)	5名	榎原昆虫館 (にわしろ・ふかい合同)	10月26日(土)	3名	御池こども食堂
7月23日(火)	5名	マス釣り	11月9日(土)	1名	マクド&大仙公園 (ふかい合同)
7月24日(水)	3名	防災センター	11月11日(月)	5名	神戸王子動物園(代休)
7月25日(木)	6名	マス釣り	11月16日(土)	5名	みかん狩り
7月31日(水)	7名	川遊び	12月14日(土)	7名	カワサキワールド
8月2日(金)	11名	きしわだ自然資料館	1月6日(月)	8名	初詣(多治速比売神社)
8月8日(木)	8名	明治ヨーグルト館	1月7日(火)	7名	ボウリング (ららぽーと和泉)
8月19日(月)	7名	下水道科学館	1月9日(木)	8名	マクド(外食体験)
8月23日(金)	4名	絆あけぼの交流会 「まるた先生」	1月11日(土)	6名	初詣(出雲大社) ビンゴ大会
8月24日(土)	5名	堺市立博物館	2月3日(月)	4名	カラオケ(代休)
8月27日(火)	9名	明治ヨーグルト館	3月13日(木)	4名	外食体験:ららぽーと和泉
8月28日(水)	10名	ファインプラザ体育館	3月14日(金)	8名	関西サイクルスポーツ センター
9月3日(火)	9名	外食体験:マクド	3月22日(土)	9名	いちご狩り
9月28日(土)	7名	ファインプラザ体育館	3月27日(木)	10名	ファインプラザ体育館 「風船バレー大会」 (ふかい合同)

⑦ 調理

買い物体験や、調理過程を通して、「食べる」ことの楽しさ、大切さを感じることができるよう取り組んだ。

4月	昼食	お花見弁当づくり	10名
5月	おやつ	こいのぼりサンド(2日間)	19名
	昼食	おにぎり&かきたまうどん	(代休)4名
6月	昼食	うどん	(代休)1名
	おやつ	わらびもちアイスクリーム添え(2日間)	20名
7月	おやつ	かき氷(4日間)	21名
8月	おやつ	かき氷	
	昼食	お好み焼き 塩おにぎり	9名
	昼食	ビビンバ風焼き飯	(土)7名
	昼食	たまごサンド&ホットドック、オニオンスープ	7名
9月	おやつ	お月見団子(3日間)	25名
	昼食	お月見ランチ (子芋煮ころがし 白玉フルーツポンチ)	(土)6名
10月	昼食	きのこパスタ	(土)4名
	おやつ	ハロウィンデコレーションドーナツ(4日間)	36名
11月	おやつ	さつまいもおこわ(4日間)	36名
	昼食	餃子&ラーメン	(土)8名

12月	おやつ	Xmas シフォンケーキミニパフェ(4日間)	39名
	昼食	クリスマスランチ	(土) 8名
	昼食	年越しうどん&おにぎり	9名
1月	おやつ	お餅つき(ぜんざい)(3日間)	27名
	昼食	おでん・きりたんぼ	(土) 9名
2月	昼食	しゅうまい&中華おこわ	(土) 5名
	おやつ	バレンタインクレープ(4日間)	33名
3月	おやつ	お抹茶体験(4日間)	35名

＜食事提供＞ 始業式や終業式の日に行った。

4月8日(月)	みいけカレー	チキンナゲット スナップエンドウ	11名
9日(火)	焼うどん		9名
10日(水)	マーボー丼		12名
7月19日(金)	みいけカレー	チキンナゲット なす コーン	11名
8月26日(月)	みいけカレー	ハンバーグ かぼちゃ	9名
12月24日(火)	みいけカレー	チキンナゲット ほうれんそう チーズ	10名
1月8日(水)	みいけカレー	鯖の竜田揚げ ほうれんそう	7名
3月24日(金)	みいけカレー	サーモンフライ 錦糸卵 スナップエンドウ	8名

⑧ 就労体験

学校の夏季休業中を利用し、中学3年・高校生を対象に、同事業所内の就労継続支援B型にて作業体験を行う予定であったが、今年度は、職員配置が取れなかったため、実施できなかった。

＜送迎＞

- ・学校授業日は、支援学校、地域の小中学校へ各学校の下校時間に合わせてルートを設定し迎えに行き、帰りは自宅までの送迎を実施。
- ・土曜日及び長期休暇等は、往復自宅への送迎を実施。
- ・自宅への送迎利用 25名

【送迎実施校】

- ・支援学校 2校(上神谷支援 泉北高等支援)
- ・地域小学校 4校(御池台 美木多 城山台 宮山台)
- ・地域中学校 1校(美木多)

【自宅送迎地区】

- ・南区(御池台 城山台 美木多上 鴨谷台 赤坂台 原山台 宮山台 三原台 榎塚台 茶山台 高倉台 片蔵)

- ・西区(鳳中町)

＜防災＞

- ・火災避難訓練
- ・防災避難訓練

＜保健＞

- ・健康診断 春・秋(希望者のみ)実施
- ・健康相談 実施せず

Linkにわしろ(児童発達支援・放課後等デイサービス)

＜利用者数＞(令和7年3月31日現在) 開所日数: 289日

	定員	登録者数	年間延べ利用者数	平均利用者数	稼働率
① 児童発達支援	5名	2名	70名	0.2名	4%
②放課後等デイサービス	5名	21名	2,308名	7.9名	159%
合計①+②	10名	23名	2,378名	8.2名	82%

児童発達支援

《活動内容》

① 設定保育

落ちついた雰囲気の中で、一人一人が興味・関心のあるものを取り入れた活動内容を設定し、「やってみてみたい」と感じられることを目標に支援した。

・制作

季節や年中行事に合わせて内容を設定。

じっくりと取り組めるように環境設定を整え、必要に応じてマンツーマン対応ができるように職員を配置し行う。個々の発達段階にあわせ工程や材料、道具を準備した。

児童の好きな素材を使うことで積極的に制作活動に意識を向け、くり返し行い経験を重ねることにより、スキルアップを目指した。

4月	・こどもの日	こいのぼり（廃材を使ったスタンプング）
5月	・母の日	メッセージカード（タンポでステンシル）
6月	・父の日	メッセージカード（タンポでステンシル）
7月	・七夕	笹飾り（スズランテープで流れ星） 短冊（親子で短冊に願い事を書く）
8月	・	
9月	・敬老の日 ・ハロウィン	絵はがき（タンポでステンシル） おぼけカボチャに絵具で色塗り
10月	・壁面 ・ハロウィン	かぼちゃ・こうもり（絵の具で色塗り） 菓子バック（画用紙で折ったバッグに飾り付け）
11月		
12月	・壁面 ・クリスマス	クリスマスブーツ（絵具で色塗り） プレゼントボックス（牛乳パックに飾り付け）
1月	・壁面	鬼のお面（絵具で色塗り）
2月	・壁面	おひなさま（千代紙、折り紙を使って）
3月		

・感覚あそび

新聞遊び、砂遊び、水遊び、体操など。

7月下旬から8月末まで事業所駐車場内にビニールプールを準備し、水遊びを実施した。

・サーキット遊び(室内)

平均台、トンネル、トランポリンなどを使って、コースを設定。運動機能の向上を促した。

・外遊び（めじろ公園を中心に、近隣の公園を利用）

戸外遊びや散歩などを通して植物などの自然と触れ合う機会を設けた。

すべり台、飛び石やブランコなどの遊具で遊ぶことを通して、バランス感覚や、筋力、柔軟性など粗大運動が発達するよう支援した。

・自立課題

児童の関心のある感覚を意識して取り入れた自立課題や発達段階に応じた課題を設定し取り組んだ。
プットイン、色や形マッチング、シール貼り、運筆、はさみなど。

② 季節や行事に合わせたイベント

8月	・にわしろ縁日	ゲームコーナーや屋台などにお客さんとして参加
10月	・ハロウィンパーティ	仮装後、室内でスタンプラリー。
11月	・おでかけ（予定児童欠席のため参加なし）	「月化粧ファクトリー」工場見学 「花咲ファーム」（昼食）
12月	・クリスマス会	歌・プレゼント運びゲーム サンタさんからプレゼント ケーキを食べる
2月	・節分 豆まき	新聞紙で豆作り 鬼の的当て

③

④ 個々の発達段階に応じた取り組み

- ・スケジュールなど絵カードを使用した視覚支援
- ・トイレトレーニング
- ・食事指導

④ 放課後等デイサービスとの交流

8月 にわしろ縁日・水遊び 10月 ハロウィンパーティ 12月 クリスマス会
雨天で公園に行けない日は放デイのフロアで一緒に遊んだ。

《送迎》

基本、保護者様の送り迎えにて通所する。

保護者の体調不良等、事情や状況に応じて送迎が必要な場合は相談を受け付け対応できるようにした。今年度は、利用時間延長後、帰りの送迎2件対応する。

放課後等デイサービス

《活動内容》

① 創作活動

季節の行事などに合わせた内容の制作を行った。

多くの制作に「顔」を作る工程が入るように内容設定した。「顔」を作ることを通して、「顔」の部位に意識を持てるように支援した。

4月	・こいのぼり（個人・集団）	紙皿で鯉のぼりのリース
5月	・母の日（個人・集団）	フラワーアレンジメント プラカップに模様付け・メッセージカード作り
6月	・父の日（個人）	トイレットペーパー芯で写真立て メッセージカード作り
7月	・七夕（個人・集団）	短冊 ビー玉コロコロで模様を描く 笹飾り
8月	・季節の制作 びっくりおもちゃ（個人）	紙コップとビニール手袋で遊べるおもちゃ作り
9月	・敬老の日（個人）	メッセージカード（廃材スタンプ）
10月	・ハロウィン お菓子バック（個人） おばけカボチャ（集団）	牛乳パックに飾り付け 新聞紙でかぼちゃを造形（絵の具で色塗り）
11月	・壁面 落ち葉アート ・クリスマス	落ち葉でライオン クリスマスリース（傘袋にフラワーペーパー）
12月	・年賀状（個人）	へび・宛名書き
1月	・節分（個人）	豆入れ 牛乳パックに飾り付け
2月	・ひなまつり（個人）	扇子風飾り 紐通し等
3月		

② レクリエーション（室内）

新聞あそび、玉入れ、サーキット、ボールプールなどゲーム感覚のもの、ダンスなど。

それぞれの取り組みに対し、参加することを目標として取り組んだ。

新聞あそびでは、児童の好きな感触のもので遊べるように様々な素材を準備した。

③ 外遊び（近隣の公園・コスモ中央公園・荒山公園・松尾寺公園・家原大池公園、原池公園など）

公園等にてかけ、遊具を使うなど体を大きく動かして遊ぶことで、運動機能や心身の発達を促すよう取り組んだ。

戸外での活動の際は、交通マナー・歩行中の危険個所の確認等を意識して移動できるよう取り組んだ。また、公園等を利用している一般の児童と空間を共有することで、遊び方やコミュニケーションの取り方、ルール等を体験し学ぶことができた。

遊ぶ前後には、手指の消毒を行い衛生面に気を付ける意識を身につけてもらえるよう支援した。

④ 運動療育プログラム

月 2 回実施 16:30～17:30

外部講師による指導

夏休み等長期休暇の際はファインプラザ大阪の体育館で実施。

⑤ ミュージックケア

月 2 回実施 第 2 水曜日 15:30～16:30 第 4 月曜日 15:45～16:45

外部講師（認定音楽療法士）による指導。

1 グループ 5 名程度、30 分のプログラムを実施。

⑥ 書道

月 2 回程度実施

曜日は固定せず、多くの利用児童が参加できるように日程等を調整した。

季節の花や食べ物の名前を書くようにし、季節感を感じるように努めた。

一人で取り組むように環境設定し、集中して字を書くことに向き合えるように支援した。

⑦ 課題（学習）

学校の宿題やプリント（事業所で準備）などの机上課題に取り組む時間を設定。

個々に合わせて自立課題（マッチング、プットイン、パズル、塗り絵など）を設定し取り組む。

実物や個別のシート（絵カード）から好きな課題を選ぶことで、意欲を持って取り組めるよう支援した。

⑧ おでかけ

土曜日・長期休暇、学校代休日に企画した。さまざまな社会体験ができる内容を取り入れた。

始業式や終業式の日の昼食は、宅配弁当を利用した。

4 月	自然遊学館/大泉緑地/副池オアシス公園/堺市中央図書館/堺市博物館
5 月	ららぽーと堺（外食体験）（代休）
7 月	ファインプラザ/食べる大切ミュージアム/プラネタリウム/月化粧ファクトリー
8 月	いずみ山愛の里/ファインプラザ/TRC シティプラザ図書館
9 月	食べる大切ミュージアム/堺市中央図書館/家原大池公園
10 月	いずみ山愛の里（代休）/バンドー青少年科学館（みいけ・ふかいと合同）
11 月	月化粧ファクトリー/プラネタリウム/松尾寺公園
12 月	美原ふるさと公園/大泉緑地/いずみ山愛の里/コスモ中央公園/コスモ中央公園/ファインプラザ
1 月	TRC シティプラザ図書館/多治速比売神社/食べる大切ミュージアム/黒鳥山公園 松尾寺公園
2 月	ららぽーと堺（外食体験）/いずみ山愛の里/家原大池公園/コスモ中央公園
3 月	いずみ山愛の里（卒休）/副池オアシス公園（卒休）/ソフィア堺/松尾寺公園 家原大池公園/ファインプラザ/錦織公園/月化粧ファクトリー

⑨ その他

- ・基本的な日常生活動作を身につけるため、個々の発達段階に合わせて支援した。
- ・ソフィア堺や図書館・プラネタリウム・食べる大切ミュージアム等の公共施設を利用した。
- ・季節の行事（縁日、ハロウィンパーティー クリスマス会など）はイベントを企画した。児童発達支援と合同で実施。
- ・誕生日会を実施。誕生日児童の希望のおやつを用意し、友達や職員と成長を喜び合う時間を設けた。
- ・絵カードを利用し、スケジュールや準備等をわかりやすく提示した。課題や自由遊び時は、絵カードが貼りだされているボードを利用し、視覚支援を行う。遊びたいおもちゃや課題を自ら選び、職員に伝えてもらうように取り組んだ。言葉で伝えることができるようになってきた児童は、絵カードの使用頻度を減らし支援を行った。

⑩ 児童発達支援との交流

季節の行事の活動の中で役割を任すことで、児童発達支援の子どもに対して、年長者としての意識を持ち行動できるよう支援した。

《送迎》

各学校の下校時間に合わせてルートを設定する。
 帰り、土曜日・長期休暇は、基本保護者の送り迎えで通所する。
 事情や状況などを考慮し、必要に応じて送迎を実施した。

【送迎実施校】

- ・ 支援学校 1校（上神谷支援）
- ・ 地域小学校 6校（庭代台 御池台 原山ひかり 城山台 美木多 三原台）
- ・ 自宅への送迎が必要な方：2名（長期休暇朝のみ）

児童発達支援・放課後等デイサービス 共通

《生き物や植物の飼育・栽培》

- ・ 生き物や植物と身近に触れ合い、飼育・栽培することによって生き物に興味や関心、親しみを持つよう取り組んだ。

通年：めだかの飼育

5月～ きゅうり・トマト・朝顔・風船カズラ

7・8月～ きゅうり・トマト収穫

11月～ チューリップの球根植え

《避難訓練》

- 7月 火災避難訓練（自主訓練）
- 11月 防災避難訓練・避難経路確認（自主訓練）
- 3月 火災避難訓練（立会訓練）

Link ふかい（放課後等デイサービス）

《利用者数》（令和7年3月31日現在） 開所日数：289日

	定員	登録者数	年間延利用者数	平均利用者数	稼働率
放課後等デイサービス	10名	27名	2,359名	8.1名	81.6%

《活動内容》

＜創作＞ 季節に応じた内容の創作活動に取り組む。
 紙等を切る・貼る・折る等の工程を個々に合わせて準備する。

8月	「平和への祈りの木」（折鶴で造る紅葉）アートケーション出品
3月	「ネームキーホルダー（レジン）」、「フォトフレーム制作（卒業生）」

＜クッキング＞ 12月21～24日、「ベビーカステラ」。前日に材料の購入も含め、全員で行う。
 12月25日、「焼きそば・みかんゼリー」。児童自ら食材を切り、プレートで焼く。
 3月24、29日、「ホットサンド・ポテトフライ」を児童数名が分担で調理。

＜土曜日・長期休暇等の活動＞

博物館や社会見学を通して知識を広げ、公園などで自然に触れ様々な経験を増やす。

4月1日	11名	大仙公園（マクドナルド）	12月25日	8名	クリスマス会
7月29日	10名	大阪市下水道科学館	1月6日	8名	多治速比売神社
8月1日	12名	青少年野外活動	1月7日	9名	多治速比売神社
8月10日	11名	大阪市下水道科学館	1月8日	8名	堺市博物館
8月6日	9名	イトーヨーカドー	3月27日	8名	ファインプラザ
8月20日	8名	ゆめ工房（体験）	土曜日		荒山公園
8月21日	7名	ゆめ工房（体験）			白鷺公園
11月9日	8名	大仙公園（マクドナルド）			コスモ中央公園
12月7日	8名	健康福祉プラザ			水賀池公園
12月14日	10名	神戸海洋博物館			原池公園

<作業訓練>

- ・作業能力に関する 24 項目（社会面と技術面）の評価と個別の目標設定。
- ・毎回の訓練記録と定期的にモニタリングを行う。個別支援計画にも反映。
- ・「巧緻性」「正確性」「効率性」「生産性」等を総合的評価・アセスメントを作成。
- ・「集中力」「忍耐力」「判断力」「理解力」等を高めるソーシャルスキル訓練。

【訓練内容】

- ・「封筒作り」「梱包（DVD ケース）」「仕分け」「ネジの組み立て」「検品（カラーサンド）」
- ・パソコン訓練（HTML プログラミング・タイピング入力・ビジネス文書や表作成）
- ・工具作業（ドライバー・レンチ等）計量作業・タオル折り・施設内清掃・面接と接客訓練

<避難訓練>

5 月：地震火災避難訓練（自主訓練） 11 月：火災避難訓練 3 月：経路避難訓練（自主訓練）

<送迎>

- ・支援学校・地域の学校への迎え、自宅への送りを実施。
- ・土曜日及び長期休暇期間は自宅への完全送迎。
- ・自宅への送迎 27 名

【送迎実施校】 ・支援学校 2 校（上神谷支援 泉北高等支援）
 ・地域中学校 4 校（三原台・深井・原山台・泉ヶ丘東）

3 事業所共通

<保健>

- ・健康診断 年 2 回 春・秋（希望者のみ）実施
- ・健康相談 地域産業保健センターの健康相談を利用
- ・メンタルヘルス 年 1 回 法人全体でウェブサイトによる診断を実施

<研修>

実施日	テーマ及び講師	備考
6 月 6 日	障害児通所支援事業者育成事業（訪問指導 第 1 回） 担当：松本 尚子氏（NPO 法人ピース）	
6 月 20 日	「個別支援計画作成におけるポイントについて」 堺市障がい児放課後連絡会 中区域会	
7 月 4 日	令和 6 年度報酬改定講習会 堺市障がい児放課後連絡会 講師：行政書士 松山和憲氏	
7 月 11 日	「関係機関との連携」あい・さかいサポーター養成研修	
9 月 3 日	「個別支援計画の作成と活用」「施設における支援体制」 あい・さかいサポーター養成研修 講師：伊丹昌一氏	
10 月 1 日	障害児通所支援事業者育成事業（訪問指導 第 2 回） 担当：松本 尚子氏（NPO 法人ピース）	
10 月 9 日	「指定相談支援事業所交流会」 堺市障がい児放課後連絡会 中区域会	
10 月 16 日	「堺市の子どもに関わる機関の役割について知ろう」 障害児通所支援事業者育成事業 講師：吉川征延氏	
10 月 17 日	「発達」「発達障がいと二次障がい」 あい・さかいサポーター養成研修 講師：吉川征延氏	
10 月 24 日	「管理者・児発管以外の職員対象 意見交流会」 堺市障がい児放課後連絡会 中区域会	
11 月 4 日	「一人で抱え込まない、チーム支援」 さわらび診療所 稲垣氏	法人研修

実施日	テーマ及び講師	備考
11月13日	「自閉症スペクトラム症の子どもの心の理解」 障害児通所支援事業者育成事業 講師：三木裕和氏	
12月24日	「援助者の自己理解」 あい・さかいサポーター養成研修 講師：渡邊佳代氏	
1月28日	障害児通所支援事業者育成事業（訪問指導 第3回） 担当：松本 尚子氏（NPO 法人ピース）	
2月6日	「実践報告会」 あい・さかいサポーター養成研修 講師：岩崎隆彦氏	
2月20日	安全運転講習 安全運転啓発ビデオ視聴：交通事故	法人車両部
2月21日	「個別支援計画と具体的な活動について意見交流」 「本人の意思決定支援について議論」 障害児通所支援事業者育成事業	
3月24日	「令和6年度堺市障害者虐待防止研修」 堺市障害施策推進課 講師：大仲 譲氏	

今年度のまとめ

令和6年度の報酬改定及び法改正により、児童発達支援・放課後等デイサービスでの「個別支援計画書」に5領域（「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」）の視点を全て含めた総合的な支援を提供することが基本となり、またインクルージョン（障害児の地域社会への参加・包括）の観点を踏まえた「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」を織り込んだ内容として記載することが義務付けられた。

加えて組織運営管理として「自己評価の実施・公表・活用」と「支援プログラムの作成・公表」をインターネットのホームページや会報等で公表していく事も義務付けられた。このように個別の児童に対する支援・サービス提供の内容に、より具体性と根拠が必要となった。また事業所としても「支援の在り方、方向性（提供する療育・発達支援のプログラム）」を明確にし、実行していかなければならない。

昨今の人手不足の問題は放課後等デイサービスも例に洩れず、深刻な問題に直面している。一昨年からの「Link みいけ・にわしろ」の常勤スタッフの退職と休職（産休・育休）が相次いだ。募集に関して常勤のみならず非常勤や派遣スタッフを含め、人員補充に努めたが現状は変わらず。また現場スタッフだけに留まらず、送迎に必要なドライバーも不足している状況。折しも、今回の報酬改定では人員配置に関して厳しいルールが設けられ、さらに体制維持に苦慮している。

「Link みいけ・にわしろ・ふかい」は児童の年齢や障がい種別（発達障がい等）を含め、ライフステージに沿った支援プログラムの棲み分けを行っている。上記で述べたように、今後は行政が事業所に求める「支援・サービス提供の質の向上と確保」に個々で対応をしていく一方で、未就学から学齢期、高校進学と就労（福祉就労も含む）までシームレスな支援提供を目的とし、3事業所の連携を強めて運営していく必要がある。そのような状況下で、次年度は新規利用児の獲得と人材確保が児童部の至上命題となる。